

## あわら市観光振興戦略の策定

～国際的な観光地を目指して～

問合せ 観光商工課 ☎ 73-8029

5年後の北陸新幹線県内延伸を見据え、開業効果を市内全域に波及させ、あわら市の観光を次のステージに引き上げ、世界から人を呼び込む国際的な観光地とするため、観光施策を総合的・計画的に進めるロードマップを盛り込んだ新たな観光振興戦略を策定します。

### 観光地のレベルアップ、観光素材の掘り起こしと磨き上げ

- ・あわら温泉、吉崎、北潟湖、細呂木、刈安山などをより魅力的な観光地とします
- ・自然、歴史、文化、食、体験、人といったモノ・コトの観光素材を掘り起こし、「あわらならではの」ものに磨き上げます

### インバウンドの推進

- ・外国人観光客が、安全に安心して観光を楽しめる受け入れ環境を整備します
- ・外国語での情報発信や、海外でのプロモーション活動を強化します

### 広域観光の推進と二次交通の充実

- ・近隣市町も含めた主要観光地や観光素材を結び付けた周遊・滞在型観光を推進します
- ・鉄道、バス、タクシー、レンタカー、レンタサイクルなど、旅行ニーズに応じた二次交通を充実させます

### マーケティングの強化、効果的な魅力発信やプロモーションの推進

- ・観光客の移動やニーズなどのマーケティングや分析力を高め、ターゲットとする年齢や性別、エリアを明確にし、効果的な手法や媒体による情報発信や誘客活動を強化します

### 観光人材の育成と観光消費額の拡大

- ・観光コンシェルジュやボランティアガイドを育成するとともに、観光従事者の拡大を図ります
- ・新たな土産品の開発や魅力的な宿泊旅行プランの造成などによる観光消費額の拡大を図ります

この戦略を観光施策の羅針盤とし、総合的かつ計画的に確実にステップアップしていきます。



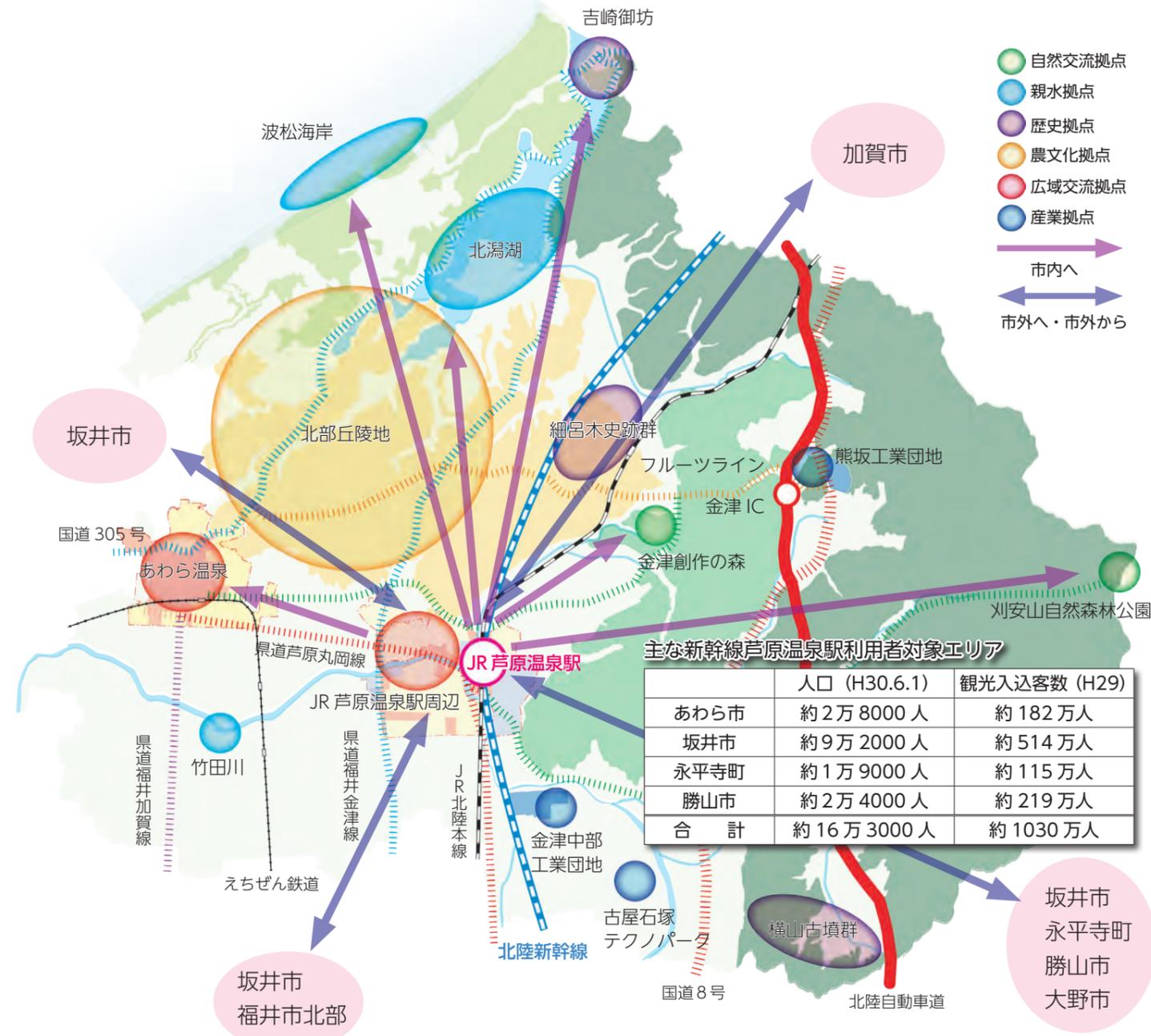
## あわら市まち・むらときめきプラン（集落活性化計画）の策定

～集落活動の維持・活性化に向けて～

問合せ 政策課 ☎ 73-8005

人口減少や高齢化が進むなかで、集落のコミュニティ機能や互助・共助機能の低下、あるいは将来の担い手不足といったさまざまな影響が懸念されています。そこで、各集落の現状や課題を踏まえ、将来像について検討し、新幹線開業効果を取り込むなど自らが主体的に企画実践する活性化プランを基に、新たな支援を行います。集落活動が維持・活性化され、みんなが元気で笑顔でずっと住み続けたいと思えるように策定し、それを支援します。

30年6月	基礎データの収集	集落代表者・世帯アンケート調査を実施します
7月 ～10月	「集落カルテ」の作成	各集落に聞き取り調査を実施し、アンケート結果および聞き取り調査内容、市が保有する集落ごとのデータをもとに、集落の現状や課題をとりまとめた「集落カルテ」を作成します
7月 ～12月	「集落ときめきプラン」の作成	集落カルテと聞き取り調査などを基に、目指すべき集落の将来像や活性化策の検討を各集落が進め、プランとして取りまとめていただきます
11月 ～31年1月	「あわら市まち・むらときめきプラン」の策定	「集落カルテ」および各集落で作成された「集落ときめきプラン」を集計・分析した上で、市全体の計画を策定します
1月 ～3月	支援策の構築	
4月～	集落活性化に向けた各種支援の実施	



## 開業効果の波及

～開業効果を市内全域、嶺北に波及させ、広域観光や産業の振興、地域の活性化につなげます～

問合せ 新幹線まちづくり課 ☎ 73-8034

### 1. 「交通結節点の駅」として利用者の増加に努めます

芦原温泉駅は、首都圏方面につながる県内で一番近い駅となることから、観光客やビジネス客のさらなる利用拡大を図ります。市内のみならず、近隣市町や嶺北北部エリアの人たちに利用を働きかけます。

**目標** 駅乗降客数：約3600人/日（平成29年）⇒約5000人/日（平成35年）

### 2. 「福井県の北の玄関口」として広域観光を推進します

観光客が当駅を中心に嶺北や加賀エリアにも足を伸ばし、この地域の魅力を感じてもらえれば、リピーターの増加につながります。他市町との連携を図りながら、魅力的な情報を発信するとともに、二次交通（鉄道、バス、タクシー、レンタカー、レンタサイクルなど）の充実を図ります。

**目標** 観光入込客数：約182万人（平成29年）⇒約220万人（平成35年）